

芸北教育

芸北分校
広島県立加計高等学校

298号

令和元年
11月号



台湾修学旅行
10月10日から13日まで
3泊4日の日程で台湾修学旅行を実施しました。
「台湾すごい」副社長の播本様の講話や「台湾の大学生」との交流活動を通して、日本と台湾の歴史について学ぶなど有意義な国際交流活動や



様々な異文化の体験をすることのでグローバルな社会を実感するなど、今後の人生に役立つ貴重な体験をしました。

全国から入学できます！ 女子下宿、男子寮完備。町より月一万円補助制度あり。**見学随時可能。**
(電話)〇八二六・三五・〇七二六



校内マラソン大会

10月23日
(水) 恒例の
校内マラソン
大会を実施し
ました。

芸北の秋らしい澄み渡る
空気の絶好の
コンディショ
ンの中、男子
は水野大君
(3年)が第
1位、女子は
柏原明華さん
(1年)が歴
代4位の好記
録で1位、河
野千春さん
(3年)が歴



代10位の記録で2位になりま
した。参加者全員(男子62名、
女子38名)が互いに切磋琢磨
しながら芸北の地を心地よい
風に乗って、走りました。



男子10km			女子5km		
順	氏名	記録	順	氏名	記録
1	水野 大	38:02	1	柏原 明華	20:43
2	柏木 太陽	38:43	2	河野 千春	21:17
3	近藤 正弥	39:03	3	藤井 美緒	23:01
4	山中 晴都	40:13	4	横畑 あゆな	23:51
5	今田 幸太	40:15	5	新田 杏夢	25:18
6	青木 杏沙	41:25	6	橋本 和花	25:29

第34回教育の集い

10月12日(土) 芸北文化ホ
ールで「第34回 家庭と学校
と地域を結ぶ教育の集い」が
「今こそ、三位一体の底力
芸北から未来を創る力を」
のテーマで開催され、3年生

牛田彪太郎君が「島から山へ」
と題して、芸北の地で学校、
保護者、地域の支えがあつて
こそ自分が成長できているこ
と。更に、将来は北広島町に
就職し、居住することを決意



し、
神楽
伝統
芸能
を引
き継
ぎた

た。いとの思いを語ってくれまし

広島県全町教育長来校芸北
中・芸北分校学校訪問



11月1日(金)広島県内の全町教育長10名が来校されました。芸中・芸分合同による「芸北の空」の合唱、野球部による「りんご踊り」、3年生松島諒君による自己体験談を語った「田舎留学から海外留学」3年生石井航洋君による地域の課題を語った「ないものはない」2名のプレゼンテーションを行いました。各教育長から質問が飛び交いました。また、「芸北

の生徒たちの元気の良さを地元の生徒たちに帰って伝えたい」という言葉も頂戴いたしました。本当にありがとうございました。この度は芸北



がもみじとなる季節にお越しいただき誠にありがとうございました。次回は雪景色の芸北にお越しくださいませ。心よりお待ちしております。

「みんなで減災」一斉訓練



11月5日(火)広島県「みんなで減災」一斉防災訓練の日程にあわせて地震防火避難訓練を実施しました。

た。当日は、北広島消防署芸北出張所の皆様から貴重な体験談や消火器の使用方法を御指導頂きました。生徒による実体験も行い防災意識を高めました。



小中高合同ボランティア活動

10月31日(木) 小中高合同

ボランティアを行いました。

芸北出身生は出身地域で、そ

他の生徒

は「雄学館」

や芸北分校

周辺の清掃

活動等を行

いました。



分校区にとつて、地域に貢
献する活動は最高の「やりが
い」を感じることが出来ます。

日頃から感じている感謝の

思いを込めて、

小中高生と地域
が協働で心地よ
い汗を流しまし
た。これから雪



の時期を迎えます。雪かき等
分校区にできることがあれば
気軽に声をかけてください。

カナダ短期留学へ行ってきま
す！

2年生石井心(こころ)さ

んが11月2日(土)〜約3カ月

間カナダ留学に行ってきます。

これは、トビタテ・留学J A

PAN日本代表プログラムで

あり、全国427名の高校生

の応募の中から書類審査、面

接審査をクリアした120名

が選考されたものです。広島

県からは10名程度の代表のよ

うです。芸北分校後援会同窓

会の壽老会長から目録が手渡

され激励していただきました。



長いようで短い3カ月間です
が、きつとかけがえのない経
験をすることでしょう。体に
気を付けて行ってらっしゃい。
帰国後は学んだことを皆に伝
えてください。

ラグビー観戦記(後篇)

44日間、日本は毎週末にラグビーが盛り上がった。そ
して、段々と選手名とルールを覚えていった。

日本代表のジェイミー・ジョセフ(ニュージール
ランド出身)氏は20年前に選手として日本代表として戦い、今
回はヘッドコーチとして「ワン チーム」を掲げて戦っ

た。代表31人の中で外国出身者は15人を占める。リー
チ・マイケル(ニュージールランド出身)が「ダイバ
ーシティー」(多様性)に言及する多国籍チームである。

「ヘッドコーチの考えや思いを主将が理解し、選手に伝
える」まさに理想の組織図となっていたのであろう。

また、今大会は色々な立場で支えとなった存在が注
目された。代表から外れた選手や台風で中止になった釜石
市等が大きく取り上げられたが、その他、ラグビーに係
るすべての人がそれぞれの場所で主人公であったように
思う。

リーチ・マイケル選手がボールを持った瞬間に場内外
で様々な思いを込めて「リーチ」と天を唱じたこと
であらう。

太公望球児